
2016年7月期 第2四半期決算説明会

包装システムの課題解決型メーカー

ゼネラルパッカー株式会社



証券コード: 6267

目次

I . 事業環境

II . 2016年7月期第2四半期決算概況

III . 2016年7月期通期業績見通し

IV . 中期経営計画ならびに

経営戦略の主な取組み状況

V . 参考資料

事業環境

- ・生産金額は高水準が続く
- ・生産台数は微減

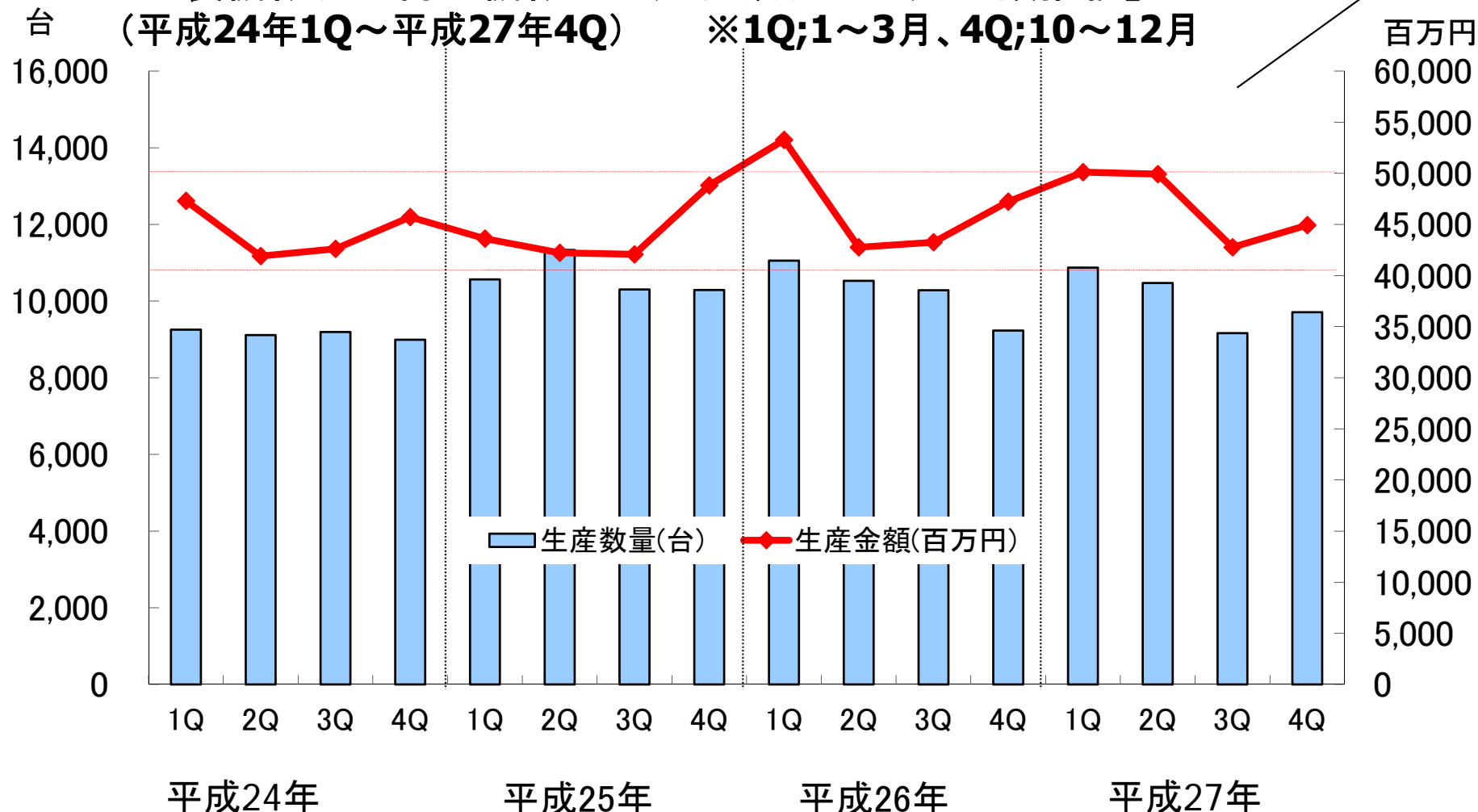
平成27年計
生産金額
前年比0.7%増
生産台数
前年比2.1%減

経産省 生産動態統計

「包装機械及び荷造機械の生産台数及び生産金額推移」

(平成24年1Q～平成27年4Q)

※1Q;1～3月、4Q;10～12月



事業環境と現状認識

＜包装機械業界＞

- 国内の設備投資需要は堅調に推移
『生産性向上設備投資促進税制』の効果
中小企業の設備投資回復 等
- 輸出は、アジア・北米地区向けが好調に推移 -- 輸出比率は、生産高の**11%**程度
- 業界全体の平成27年度(H27.4～H28.3)の生産高は、前年度から増加し
4,100億円を越える見通し ※(一社)日本包装機械工業会 生産高統計

＜当社の動向＞

- 高額案件(**50百万円以上**)の受注実績が増加し、上期の機械受注高は、前年同期を上回る。
包装機受注が好調に推移し、自社機品目の受注高は、前年同期比約**4割増**となる。
- 一部案件で繰越が発生したため、上期の売上高は計画を下回る。
⇒下期でカバーし、通期の売上高は期初予想通り。
- 海外市場向けは、上期の売上高は前年同期を下回るが、
ペットフード向けの実績が増加し、上期の機械受注高は、前年同期を上回る。

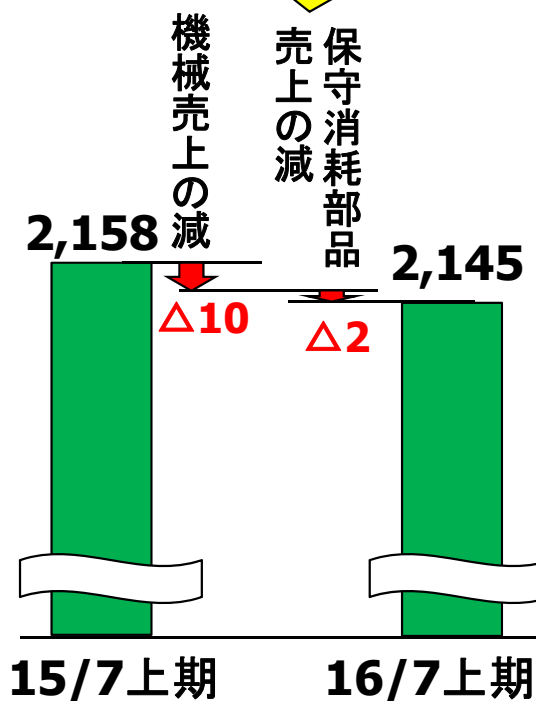
II. 2016年7月期 第2四半期決算概況

2016年7月期 第2四半期決算のポイント

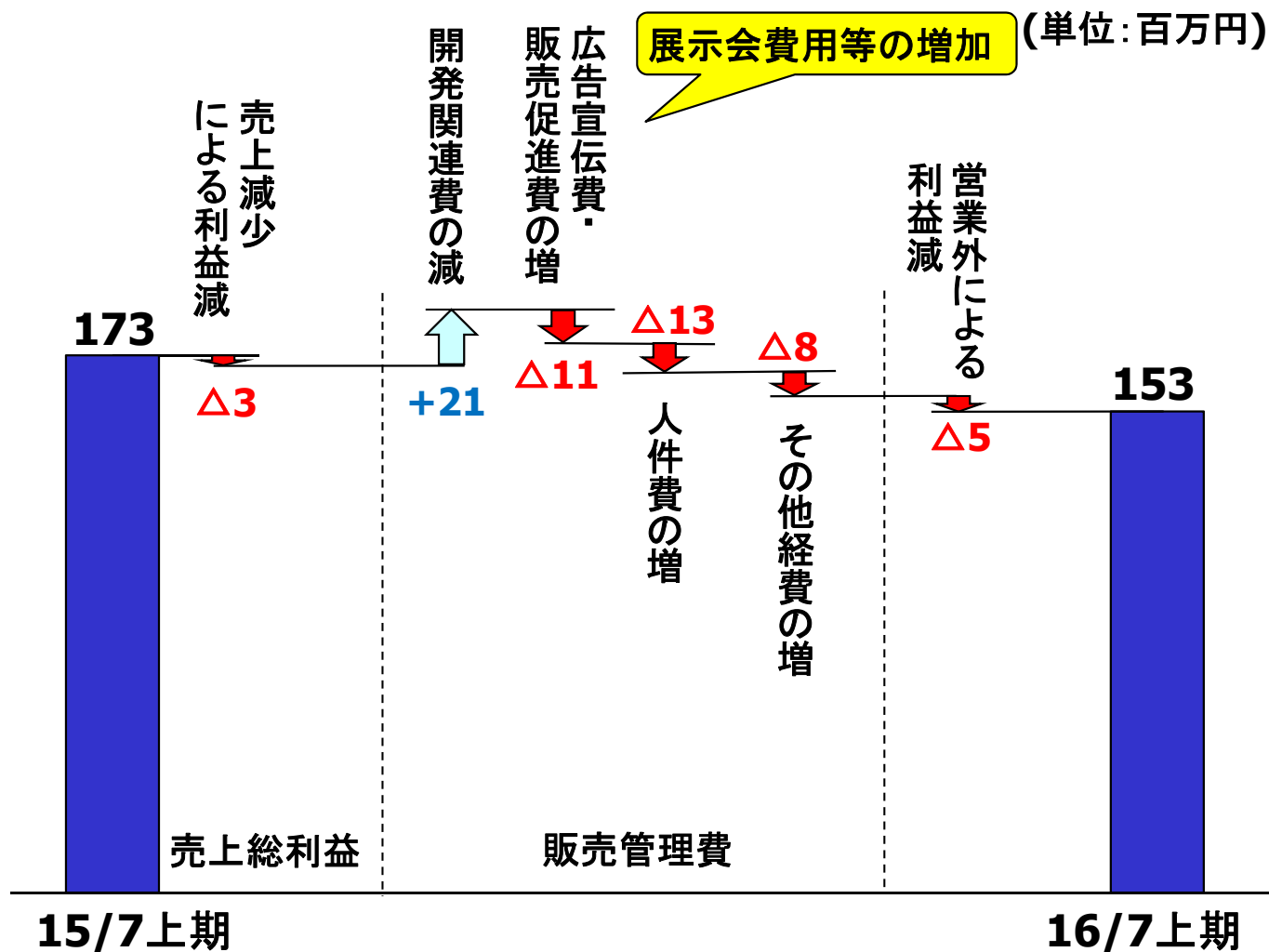
売上高
12百万円の減収

販売台数の減少等

高額保守が減少



経常利益増減要因(前年同期比) 19百万円の減益



期初予想比; 254百万円減収、43百万円増益

売上時期が第3Qにずれこむ
研究開発費の計画比減少

2016年7月期第2四半期累計 決算概要

(単位:百万円、%)

	2015年7月期 第2四半期累計		2016年7月期 第2四半期累計		前年同期比		2016年7月期 第2四半期累計計画		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率	金額	計画比	率
売上高	2,158	100.0	2,145	100.0	△12	△0.6	2,400	△254	△10.6
売上総利益	623	28.9	619	28.9	△3	△0.6	686	△66	△9.7
営業利益	168	7.8	153	7.2	△14	△8.8	109	44	40.3
経常利益	173	8.0	153	7.1	△19	△11.5	110	43	39.5
四半期純利益	120	5.6	102	4.8	△17	△14.9	70	32	46.5

減収・減益

- 販売台数が減少したことから、売上高は前年同期比12百万円減収。
- 売上総利益は、減収により、前年同期比3百万円減少。
売上総利益率は、前年同期と同等。
- 販管費は、人件費等の増加に伴い、前年同期比11百万円増加。
- 経常利益は、計画を上回ったが、前年同期比19百万円減益。
- 四半期純利益は、計画を上回ったが、前年同期比17百万円減益。

品目別売上内訳

(単位:百万円、%)

	2015年7月期 2Q累計	2016年7月期 2Q累計	前年同期比増減		2016年7月期 2Q累計計画
			金額	率	
給袋自動包装機	1,302	1,373	+71	+5.5	1,458
製袋自動包装機	135	100	△34	△25.8	98
包装関連機器等	155	108	△46	△30.1	366
保守消耗部品その他	565	563	△2	△0.4	477
合計	2,158	2,145	△12	△0.6	2,400

注)給袋自動包装機は、ガス充填自動包装機を含む

前年同期比：△12百万円、△0.6%

給袋自動包装機は増加したが、その他品目が減少。

- ・給袋自動包装機： +71百万円・・・高機能機種の販売実績が増加
- ・製袋自動包装機： △34百万円・・・販売台数が減少
- ・包装関連機器等： △46百万円・・・包装システムが減少
- ・保守消耗部品その他： △2百万円・・・高額保守案件の実績が減少

機械売上
△10

- ・機械売上高 計画比 △340百万円・・・高額案件で繰越が複数発生
- ・保守消耗部品 計画比 +86百万円・・・高額案件の増加

四半期売上高

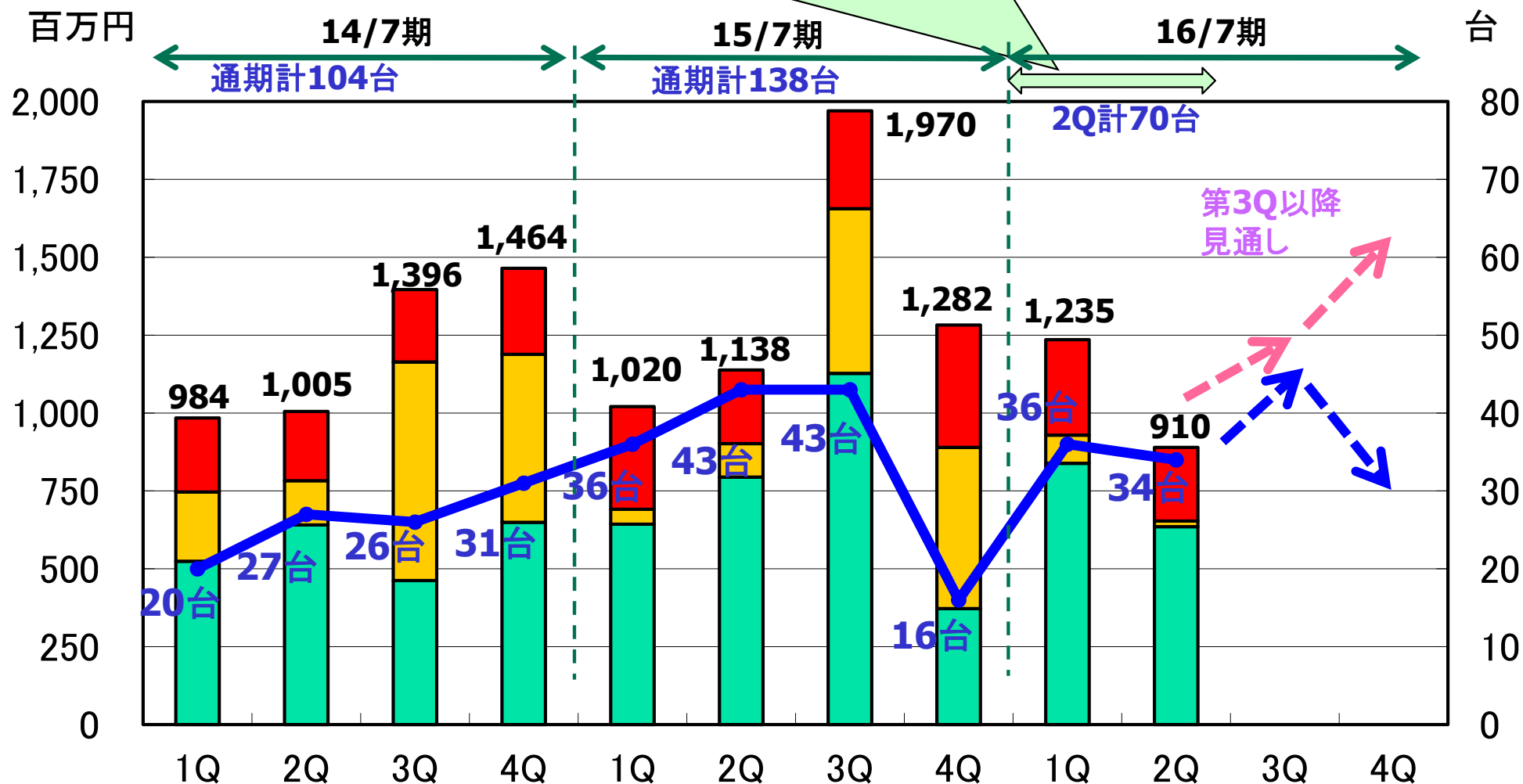
大型案件の有無、高額機種の販売台数により、
四半期売上高は大きく変動

第2四半期累計実績

自社機販売台数 前年同期比△9台

自社機売上高 前年同期比+36百万円

※(給袋自動包装機<ガス充填自動包装機含む>、製袋自動包装機の合計)

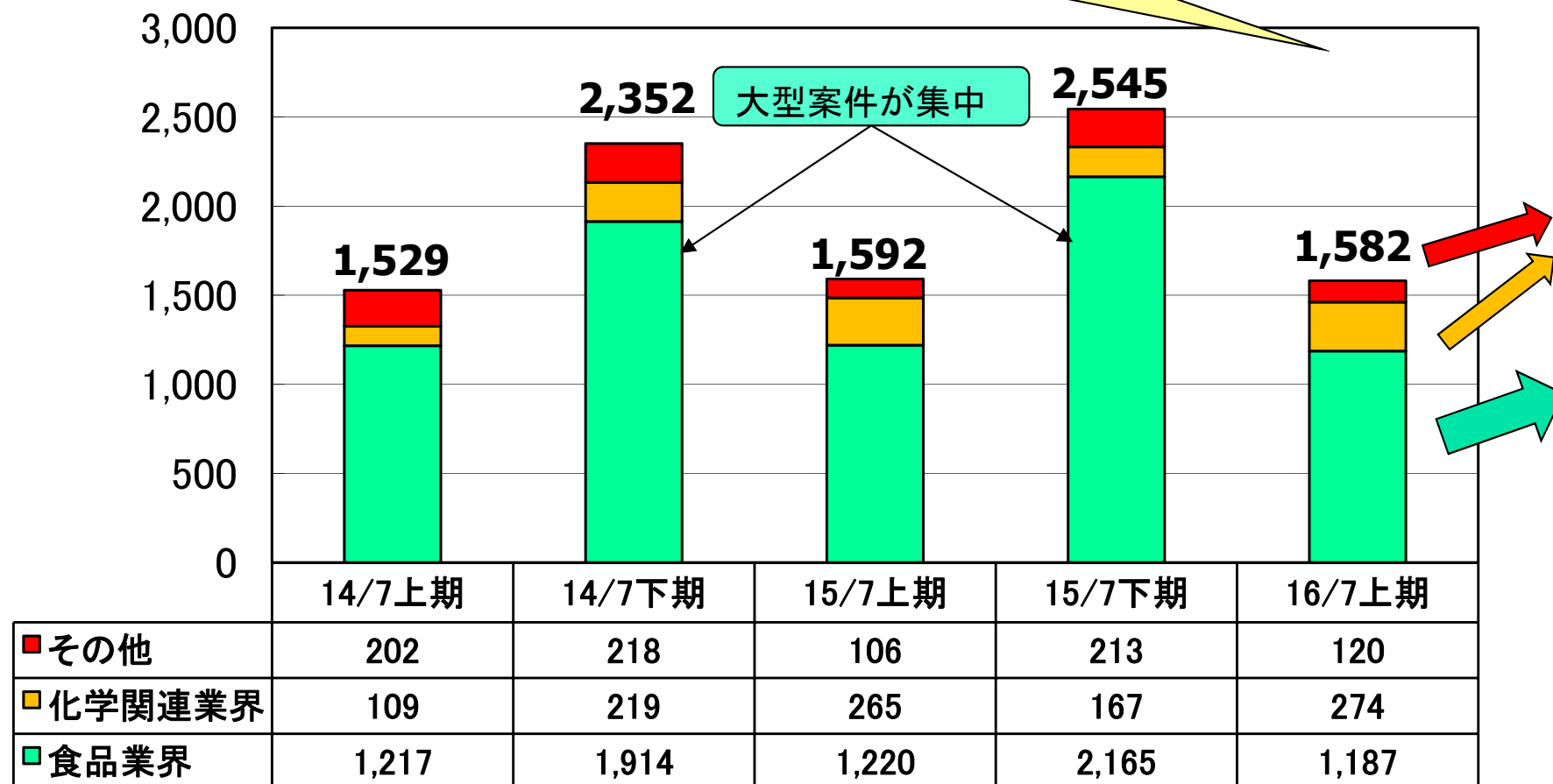


■ 自社機合計 ■ 包装関連機器等 ■ 保守消耗部品 ◆ 自社機販売台数(右軸)

エンドユーザー業種別売上高

食品業界の減少により、機械売上高は前年同期比0.7%減

百万円	<化学関連業界> 医療分野、健康食品等 <その他> ペットフード、種苗等	16/7期上期実績			16/7下期見通し(上期比) 各業界とも増加 全体で上期より大幅に増加
		食品業界	前年同期比	2.7%減	
		化学関連業界	前年同期比	3.3%増	
		その他	前年同期比	12.6%増	



国内/海外市場別売上高

(エンユーザー市場)

16/7期上期実績

国内市場 前期同期比 +75百万円

海外市場 前期同期比 △86百万円

16/7下期(上期比)

・国内市場

増加の見通し

・海外市場

大幅な増加の見通し

百万円

3,000

2,500

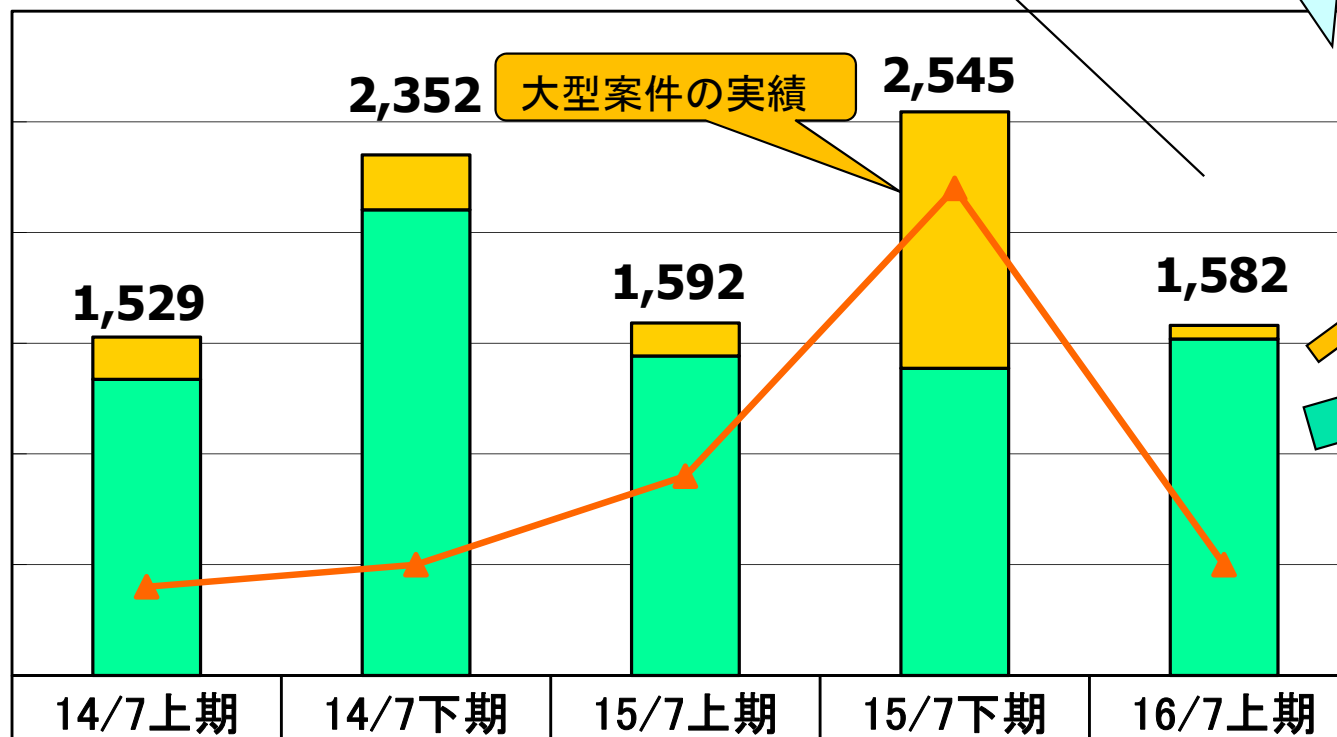
2,000

1,500

1,000

500

0



台

30

25

20

15

10

5

0

海外市場	191	248	149	1,158	62
国内市場	1,337	2,103	1,443	1,387	1,519
海外向け台数	4	5	9	22	5

(自社機)

海外市場向けの売上高(部品含む)

(エンドユーザー地域別)

＜アジア市場＞

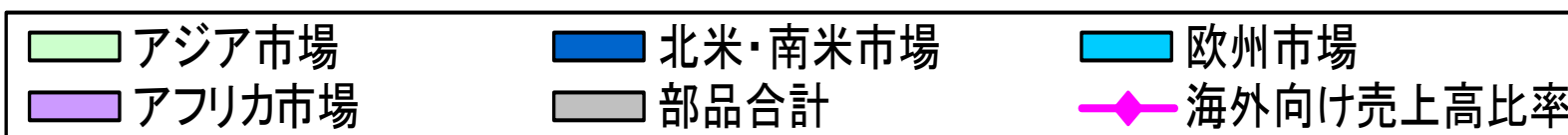
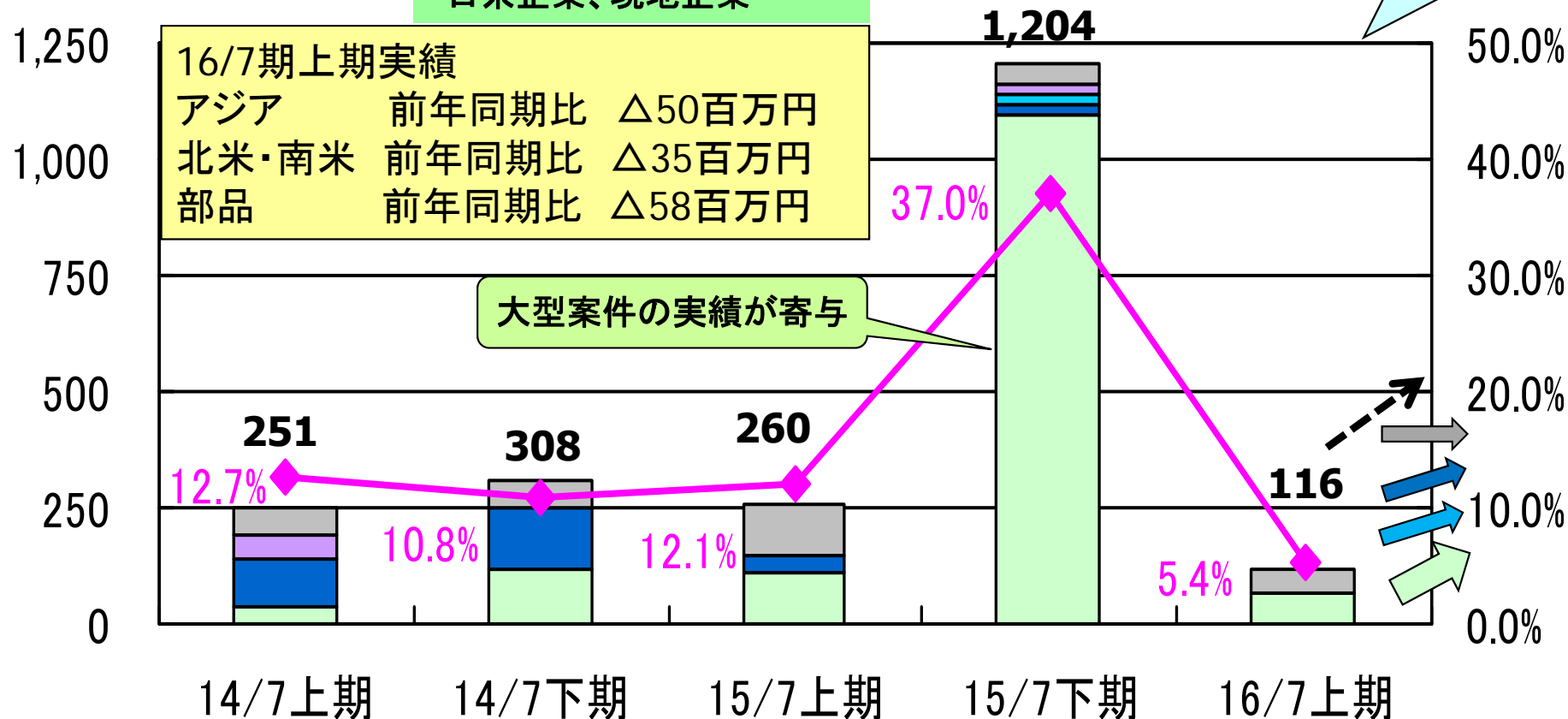
中国・東南アジアが中心
・日系企業、現地企業

＜北米・南米、欧州市場＞

ドライパットフード向けが中心

16/7下期(上期比)
アジアは増加、
北米・南米、欧州は
実績有りで増加
全体で大幅な増加

百万円

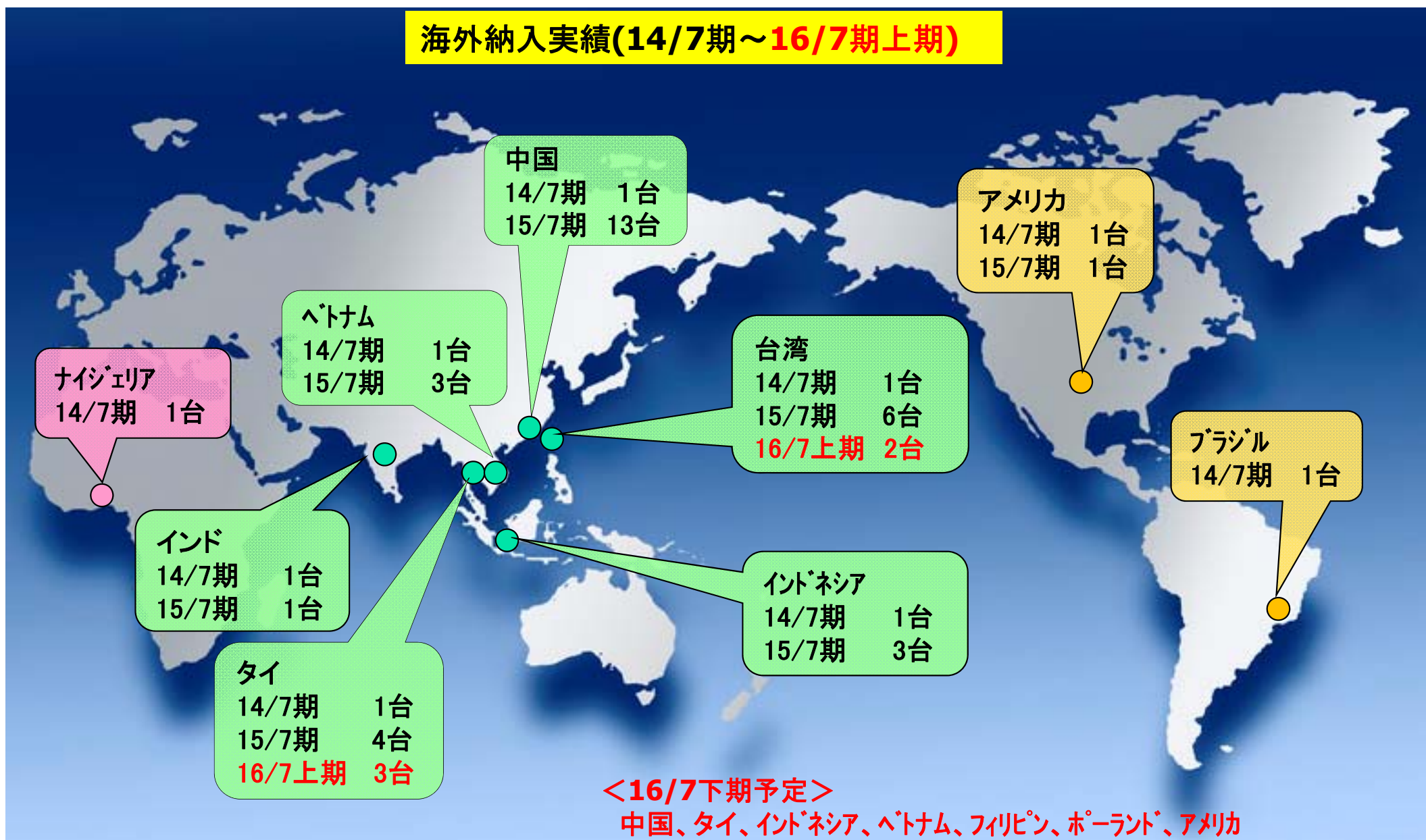


※機械売上高;エンドユーザー地域別

海外市場向け 国別実績

※自社機台数

海外納入実績(14/7期～16/7期上期)

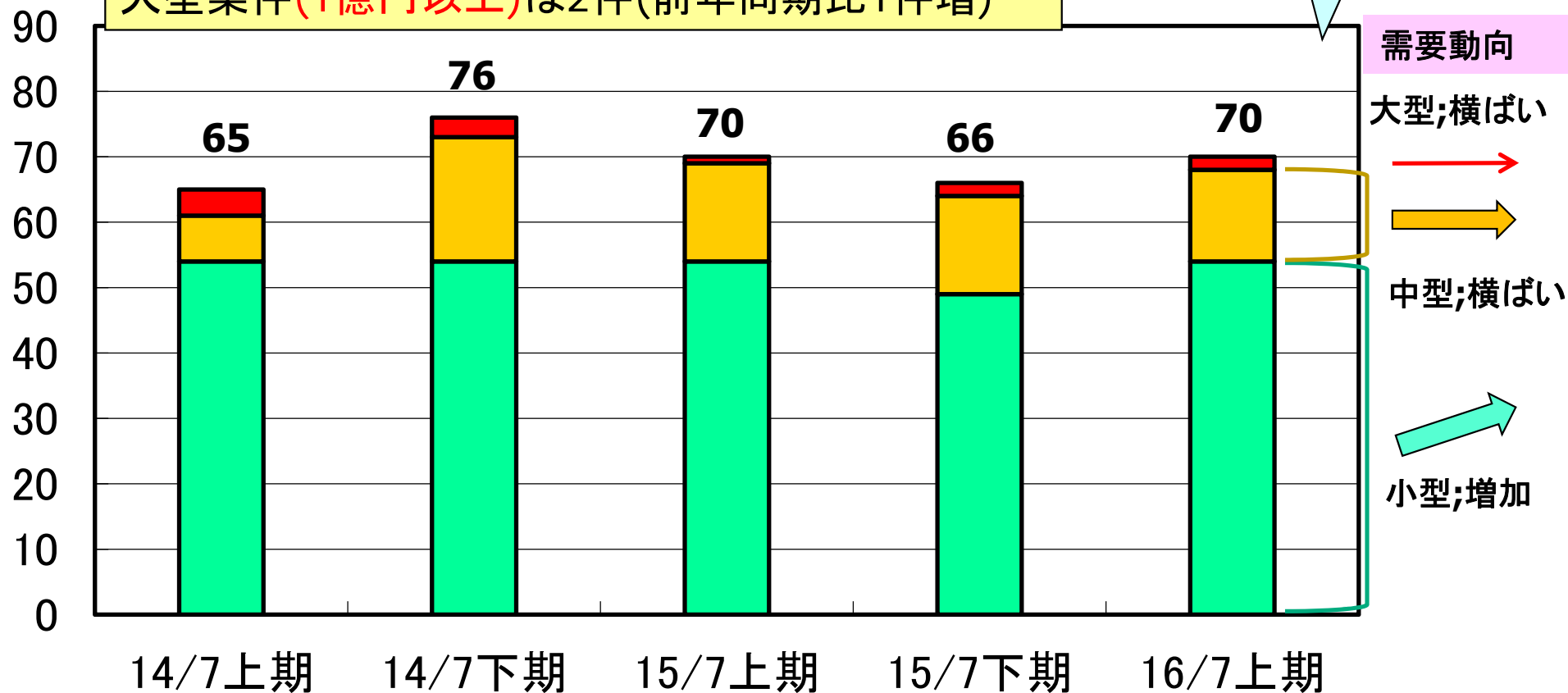


機械の受注件数

<16/7下期計画>
中小型案件の受注増加
を目指す

件数

受注件数は前年同期比 同
大型案件(1億円以上)は2件(前年同期比1件増)

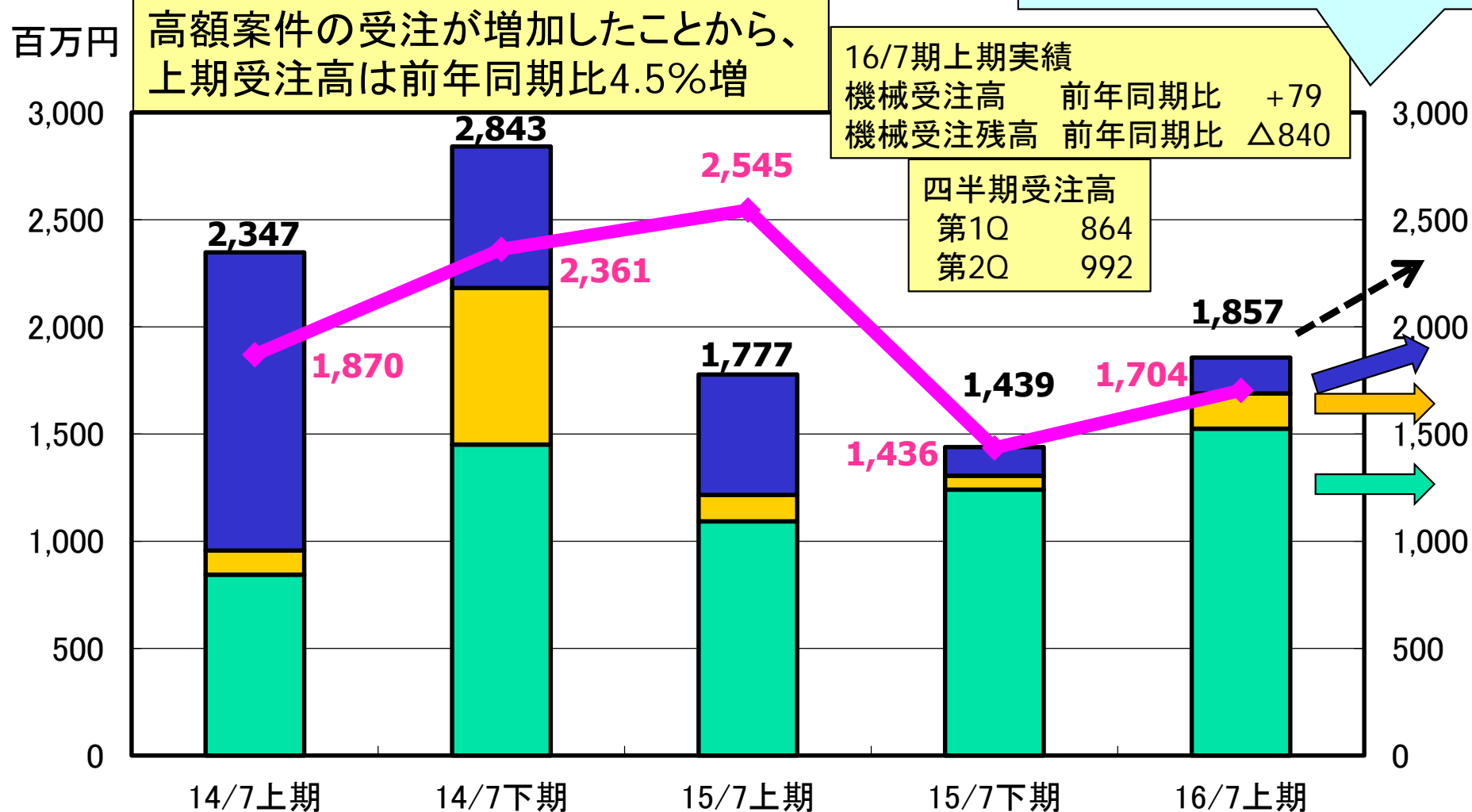


1件当たりの
受注金額の層別

■ 30百万円未満 ■ 30百万円-1億円未満 ■ 1億円以上

機械の受注動向

＜16/7下期計画＞
大型案件の確保と包装関連機器の増加で、上期より増加を目指す

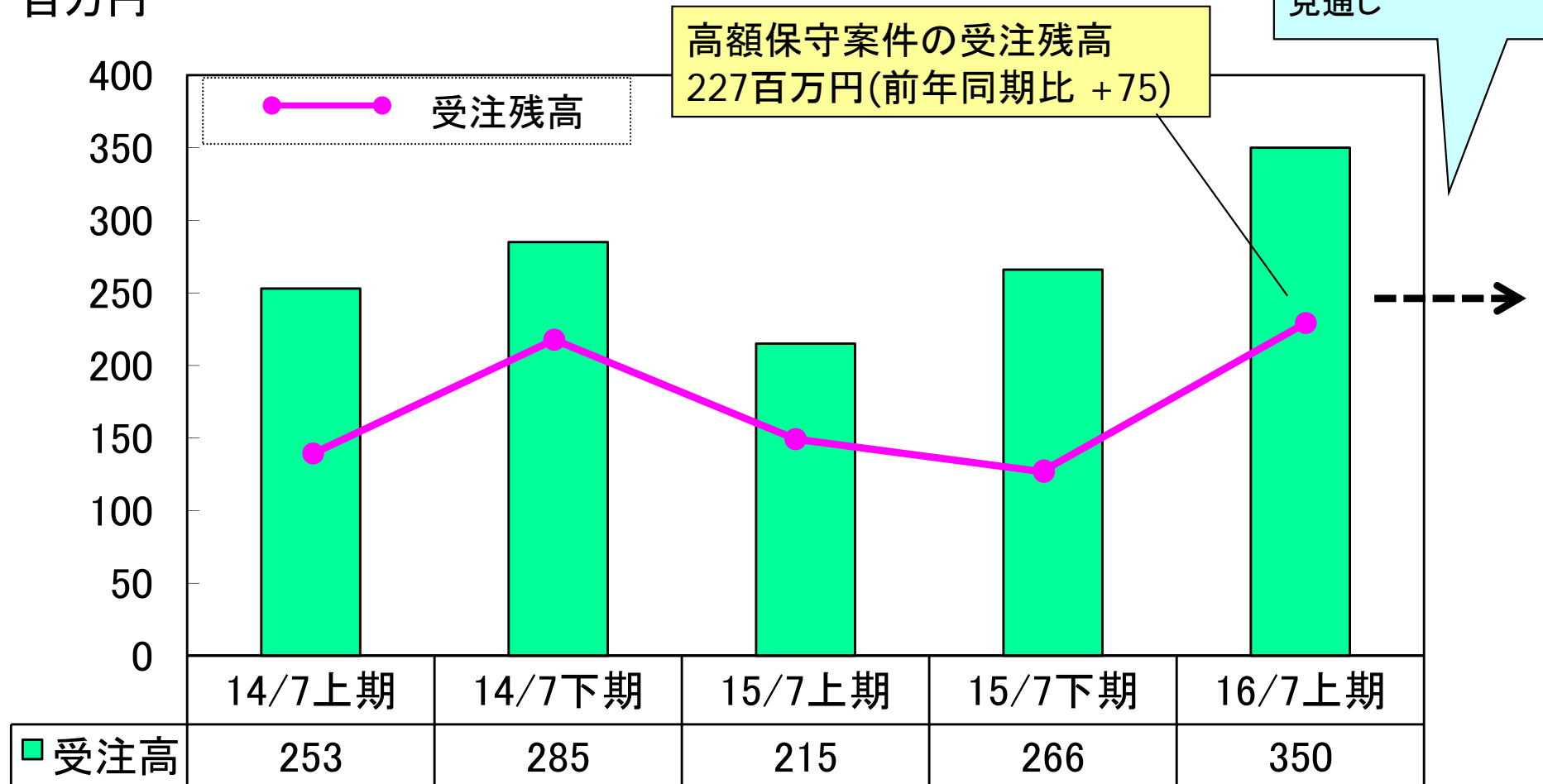


■ 給袋自動包装机
 ■ 製袋自動包装机
 ■ 包装関連機器等
 ◆ 期末受注残高(右軸)

高額保守案件の受注高推移

高額保守案件: 百万円以上／件の保守・改造

百万円

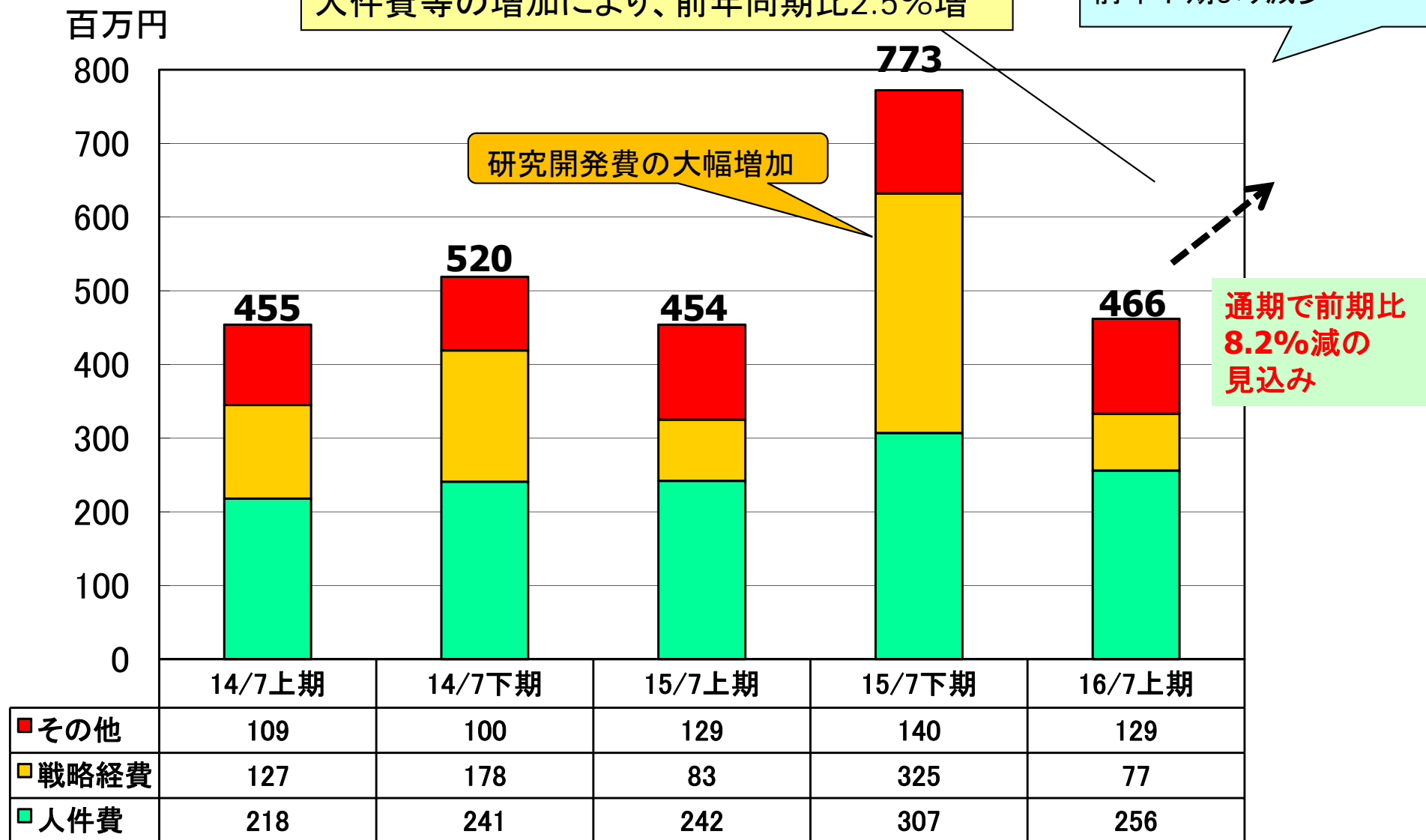


注) 印字機・検査装置等の仕入機器の費用も含む
仕入機器の販売のみの場合は、包装関連機器等に計上

販売費及び一般管理費

人件費等の増加により、前年同期比2.5%増

16/7下期計画
研究開発費等の増加で、
上期より大幅に増加
前年下期より減少



(注) 戦略経費: 広告宣伝費、減価償却費、販売促進費、開発関連費、求人費、業務委託費等の合計

Ⅳ. 2016年7月期 通期業績見通し

2016年7月期通期業績見通し

業績動向を踏まえ、
下期計画を一部修正

単位:百万円	期初計画	修正計画	差異	※通期の売上高・営業利益は修正無し
売上高				
上期(1Q-2Q)実績	2,400	2,145	△254	
下期(3Q-4Q)	2,600	2,954	254	上期分繰越
通期	5,000	5,000	0	前期比△411(7.6%減)
売上総利益				
上期(1Q-2Q)実績	686	619	△66	売上高減少
下期(3Q-4Q)	741	756	15	売上高計画変更に伴う修正
通期	1,428	1,376	△51	総利益率 期初計画比 △1.0ポイント
販売費及び一般管理費				
上期(1Q-2Q)実績	576	466	△110	研究開発費減少、予算執行の繰越
下期(3Q-4Q)	602	661	59	研究開発費及び人件費の増加
通期	1,179	1,128	△51	
営業利益				
上期(1Q-2Q)実績	109	153	44	
下期(3Q-4Q)	139	95	△44	
通期	248	248	0	前期比△65(20.9%減)

2016年7月期業績予想

(単位: 百万円、%)

	2015年7月期		2016年7月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
売上高	5,411	100.0	5,000	100.0	△411	△7.6
売上総利益	1,542	28.5	1,376	27.5	△166	△10.7
営業利益	314	5.8	248	5.0	△65	△20.9
経常利益	319	5.9	250	5.0	△69	△21.8
当期純利益	224	4.1	165	3.3	△59	△26.5

減収・減益

- 売上高は前期比7.6%減の50億円を見込む
下期取組み: 繁忙期の生産力強化と海外向け売上高の増加
- 総利益率は、前期比1.0ポイント低下し27.5%
下期取組み: 高額案件の粗利益向上
- 販管費は、研究開発費などの減少により、前期比8.2%減少。
- 経常利益率は前期比0.9ポイント低下し5.0%
- 当期純利益は、前期比59百万円減の165百万円

2016年7月期品目別売上高予想

(単位:百万円、%)

	15/7上期		15/7下期		16/7上期		16/7下期 (予想)	
		売上比		売上比		売上比		売上比
給袋自動包装機	1,302	60.3	945	29.1	1,373	64.0	1,581	54.4
製袋自動包装機	135	6.3	554	17.0	100	4.7	214	7.5
包装関連機器等	155	7.2	1,045	32.2	108	5.1	491	17.2
保守消耗部品その他	565	26.2	706	21.7	563	26.2	566	19.9
合計	2,158	100.0	3,252	100.0	2,145	100.0	2,854	100.0

注)給袋自動包装機は、ガス充填自動包装機を含む

品目別売上高通期見通し

前期比：△411百万円、△7.6%

給袋自動包装機は増加するものの、その他品目が減少。

- 給袋自動包装機:2,955(前期比+706百万円)・・・販売台数の増加
- 製袋自動包装機:315(前期比△374百万円)・・・高機能機種の減少
- 包装関連機器等:600(前期比△601百万円)・・・大型包装システムの減少
- 保守消耗部品その他:1,130(前期比△142百万円)・・・高額保守の減少

自社機売上
+332

機械売上
△268

株主還元

中期配当政策

- 株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向**50%**または純資産配当率(DOE)**2%**を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指す。

←----- 3期間累計配当性向 **42.9%** ----->

	2013/7期	2014/7期	2015/7期	2016/7期予想
中間配当	3.50円	3.50円	4.00円	3.50円
期末配当	3.50円	3.50円	5.00円	17.50円 ※
年間配当	7円	7円	9円	—
当期純利益／株	10.34円	18.03円	25.26円	92.83円 ※
配当性向	67.7%	38.8%	35.6%	37.7%
DOE	2.2%	2.1%	2.6%	2.0%

※2016/7期予想 <2016年2月1日付で、5株につき1株の株式併合を実施>

期末配当、当期純利益/株は、株式併合を考慮した予想数値

●株式併合を考慮しない場合 期末配当 3.5円 年間配当 7円

当期純利益/株 18.57円

同時に単元株式数を変更
1,000株 ⇒ 100株

IV. 中期経営計画ならびに 経営戦略の主な取組み状況

第4次中期経営計画(2015年7月期～2017年7月期)

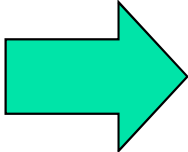
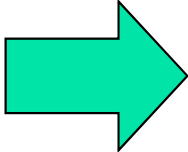
◆中期経営ビジョン

海外市場での成長基盤構築の時期

1. 世界に飛躍するGPブランド
2. **One stop**で応えるソリューションカンパニー
3. 挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』

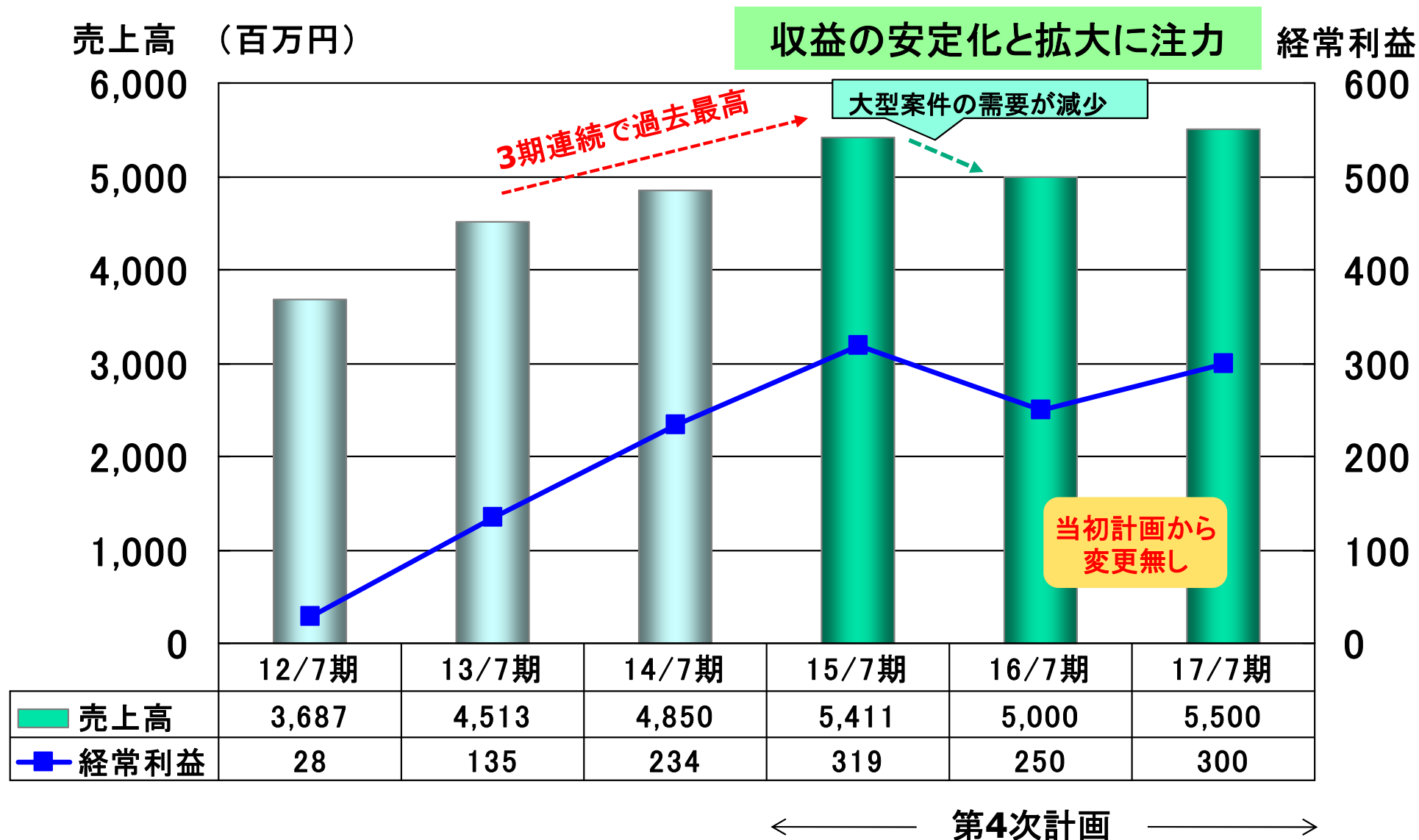
◆中期数値目標

第3次中計実績

	14/7期実績		17/7期目標
売上高経常利益率	4.8%		5.5%以上
ROA(総資産経常利益率)	4.7%		5.5%以上
ROE(自己資本当期純利益率)	5.5%		6.0%以上
	14/7期実績		17/7期目標
売上高	4,850百万円		5,500百万円
営業利益	229百万円		295百万円
経常利益	234百万円		300百万円
当期純利益	160百万円		200百万円

業績計画

第3期(17/7期)の数値については、事業環境と業績動向を踏まえて、ローリングする場合あり



事業計画モデル

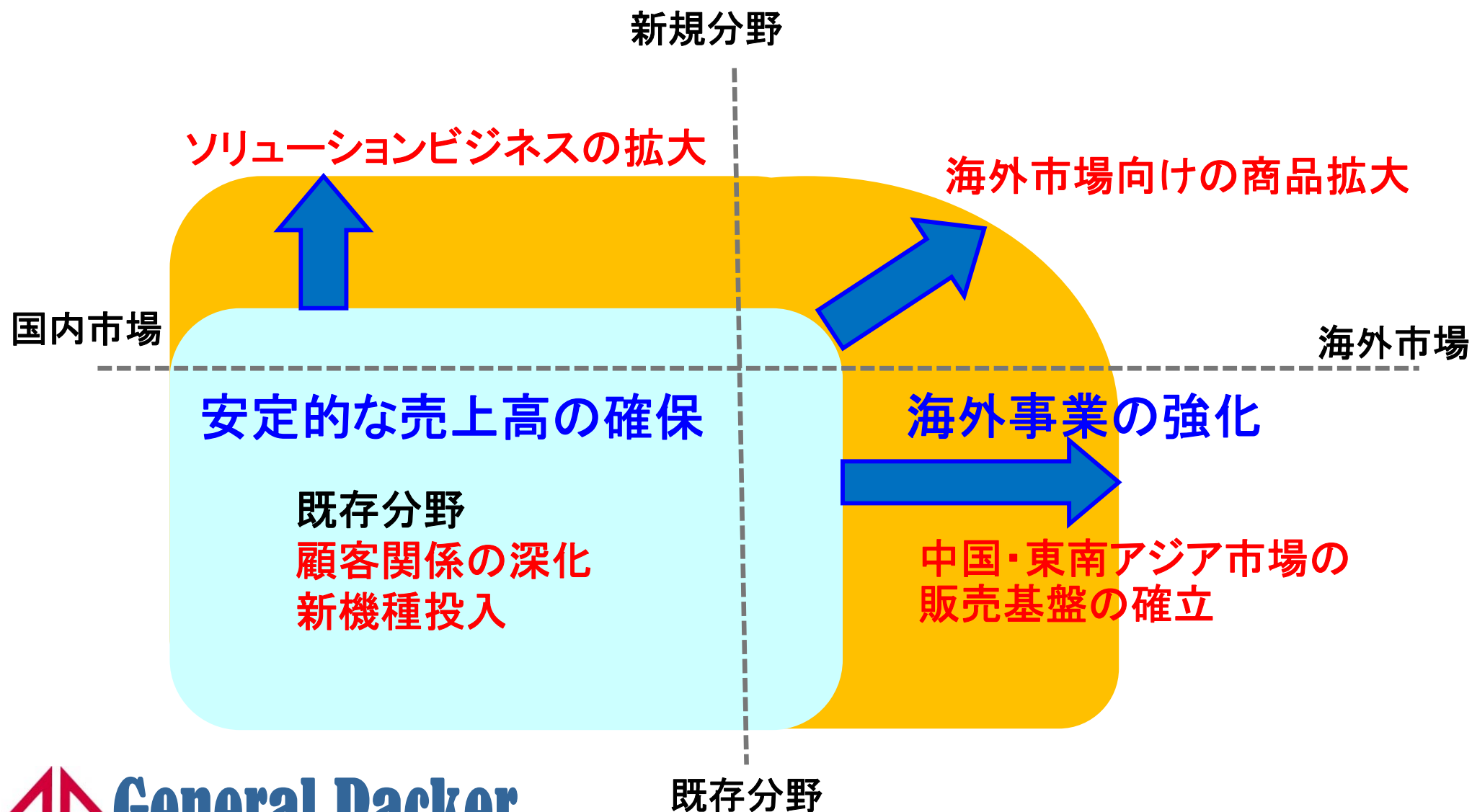
売上高(単位:百万円)	15/7期実績 (15/1期実績)	16/7期 期初予想	16/1期 実績	16/7期 修正予想	修正理由 今後の見通し
国内市場 (機械)	2,830 (1,443)	3,200	1,519	3,340	<ul style="list-style-type: none"> ・販売台数の増加 ・堅調な見通し
海外市場 (機械)	1,307 (149)	800	63	530	<ul style="list-style-type: none"> ・高額案件の受注が減少 ・見込み案件は増加、開拓を強化
保守消耗部品	1,272 (565)	1,000	563	1,130	<ul style="list-style-type: none"> ・国内市場の受注が増加 ・横ばいの見通し
	5,411 (2,158)	5,000	2,145	5,000	

大型案件の実績
販売台数の増加

反動減を予想

基本戦略

「持続的成長に向けてグローバル企業を目指す」



基本戦略

- ①顧客関係の深化と新機種投入により、国内市場で安定的な売上高を維持する
- ②海外事業を強化し、海外市場向けの売上高の大幅な伸長を目指す
- ③顧客の期待にワンストップで応え、ソリューションビジネスの拡大を図る
- ④競争力強化と海外市場開拓のための商品開発を推進する
- ⑤顧客が安心して生産活動できる包装システムとサービスの提供で、顧客満足度を得る
- ⑥事業領域拡大のためのM&A・アライアンスを推進する

主な経営施策

販売戦略

- ①グローバル企業及び国内企業海外拠点への企画提案営業の強化
- ②中国・東南アジア市場の販売基盤の確立
- ③次世代包装機販売と顧客関係の深化
- ④問題解決型企业として、顧客の悩み事に素早く対応

開発・技術戦略

- ①次世代包装機及び海外市場向け新機種の開発
- ②メカトロモーション技術の新たな創造
- ③新しいコア技術の追求による差別化の推進
- ④設計の標準化及び構成部品の共通化を推進
- ⑤人材育成による開発力・トータルプラン力の強化

販売戦略

海外事業の強化

■海外営業部の体制強化

16/7期上期 増員を実施

■販売基盤の確立

<中国市場>

- ・代理店の営業活動支援

中国市場の開拓を強化
上海展示会への出展(2016/7月)

<東南アジア市場>

- ・新規販売チャネルの開拓 --- タイ; 1社代理店契約締結
インドネシア他、調査とアプローチ

■ペットフード用包装機の拡大(主に欧米市場)

- ・大手メーカーグループへの新機種拡販 ⇒ 2台受注、受注残 4台

■新規顧客開拓の受注実績

14/7期	15/7期	16/7期上期
5社 タイ、インド、中国	6社 アメリカ、インド、インドネシア、 中国、タイ、ベトナム	6社 (内1社 4カ国一括) 台湾、中国、タイ、 ベトナム、フィリピン

販売戦略

ソリューションビジネスの拡大

■システムソリューション部

- ・営業本部との連携強化
国内既存顧客へのソリューション提案
中国・台湾市場の新規顧客開拓

見込み案件数が増加
16/7期下期受注活動を強化

■高額システム(30百万円以上)の受注実績

	14/7期	15/7期	16/7期上期
受注件数	10件	3件	1件
業種	食品(8件)、医療、健康食品	食品(2件)、医療	医療

内5件は、**15/7期売上分**

大型案件(1億円以上)

■ロボット応用システムの納入

上記高額システムの一部は、資本業務提携先 **ワイ・イー・データのシステムを納入**
納入実績(売上期) **14/7期 3件 15/7期 3件(計6ライン)**

開発・技術戦略

■開発テーマ <第4次中計>

- ①メカトロモーション技術、コア技術の開発
- ②次世代包装機の開発
- ③特定ユーザー・業種のニーズに対応した新機種の開発 等

16/7期 海外市場向けペットフード用新機種、次世代包装機の開発に注力

■開発実績・計画

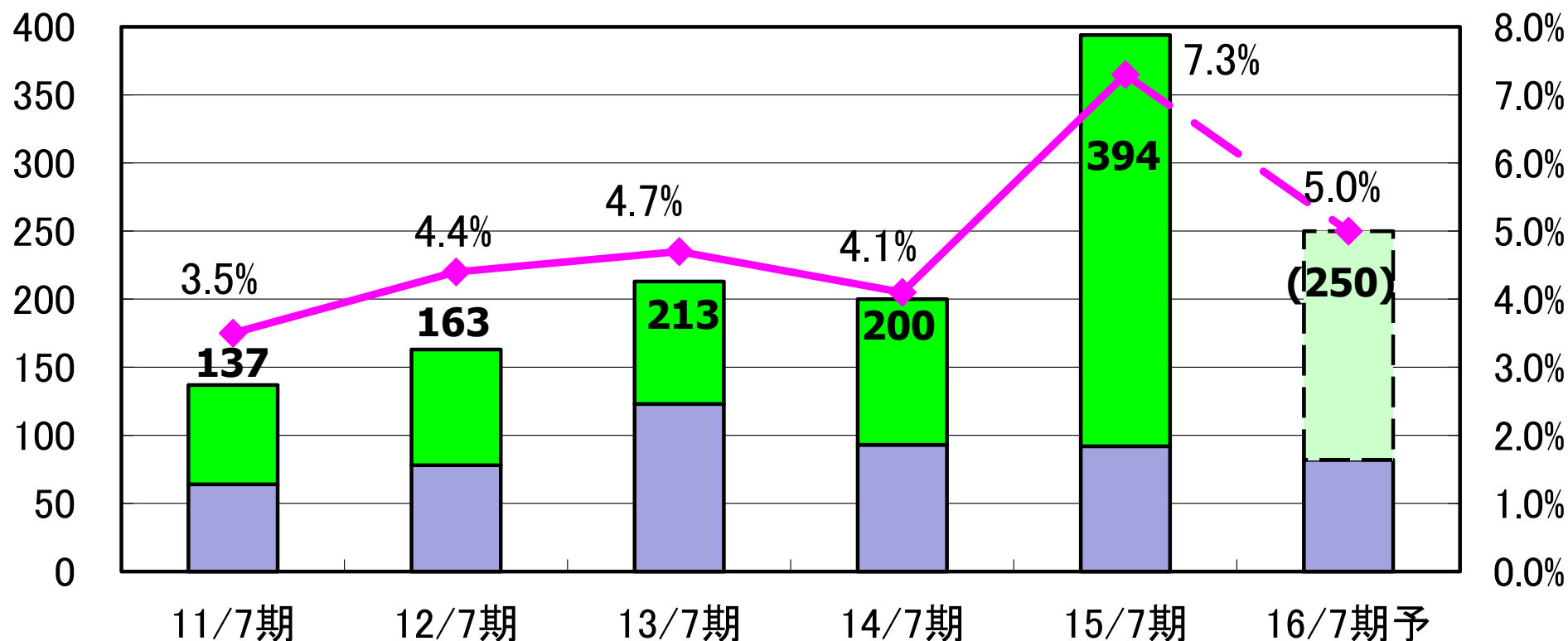
		販売台数			受注残 1台
時期	機種数	14/7期	15/7期	16/7期上期	対象業種
14/7期開発機	0	—	—	—	
15/7期開発機	3	—	3	1	食品、酒造、ペットフード
16/7期上期実績	1	—	—		コーヒー
16/7期下期計画	1~2				ペットフード、汎用 等

受注残 4台

研究開発費

下期に、技術開発費用が増加
売上高研究開発費比率は、16/7期は5.0%の計画

百万円



■研究開発費(上期) ■研究開発費(下期) ◆売上高研究開発費比率(右軸)

※研究開発費の内訳; 4～5割が人件費

V. 参考資料

包装機械業界

単位:億円

企業数 約420社(専門メーカー 約240社)

中小企業が約9割

機種別	生産高
個装・内装機械	3,383
包装用計量機	215
充てん機	426
びん詰機械	589
製袋充てん機	613
真空包装機	105
その他	1,435
外装・荷造機械	624
ケース詰機	152
その他	472
合 計	4,007

需要先別構成比

- ・食品部門 49.4%
- ・化学部門 18.3%
- ・その他 21.4%
- ・輸出 10.9%

主な上場企業

専門メーカー:東京自働機械製作所

兼業メーカー:CKD、渋谷工業 等

袋詰用包装機

当社の主力包装機の区分

当社:包装機械の専門メーカー

■ドライ物(粉末・顆粒・固形物等)の包装機械・システムに特化

・高品質・高難易度の包装分野

・チャック付袋包装、ガス充填包装等

主な競合先(ロータリー式包装機メーカー)

・東洋自動機(非上場):レトルト物の包装が主力

※ナブテスコ連結子会社

・古川製作所(非上場):ウェット物・真空の包装が主力

(一社)日本包装機械工業会

「包装機械及び荷造機械生産高統計」

2014年度実績

会社概要(2016年1月31日現在)

■設立 1966年(創業 1961年)

■資本金 251百万円

■発行済株式数 1,798,800株

■売買単位 100株

■決算期 7月末

■事業内容 各種自動包装機の製造・販売

(食品・化学品・健康食品・医療用品等の包装用機械・システム)

■従業員数 130名(その他臨時雇用者19名)

■事業所 本社・工場、東京営業部、上海事務所

2016年2月1日付(実質上1月27日)
株式併合 5株⇒1株、単元株式数変更

証券コード; 6267
東証JASDAQ・名証二部

■役員 取締役 6名(内 社外1名)

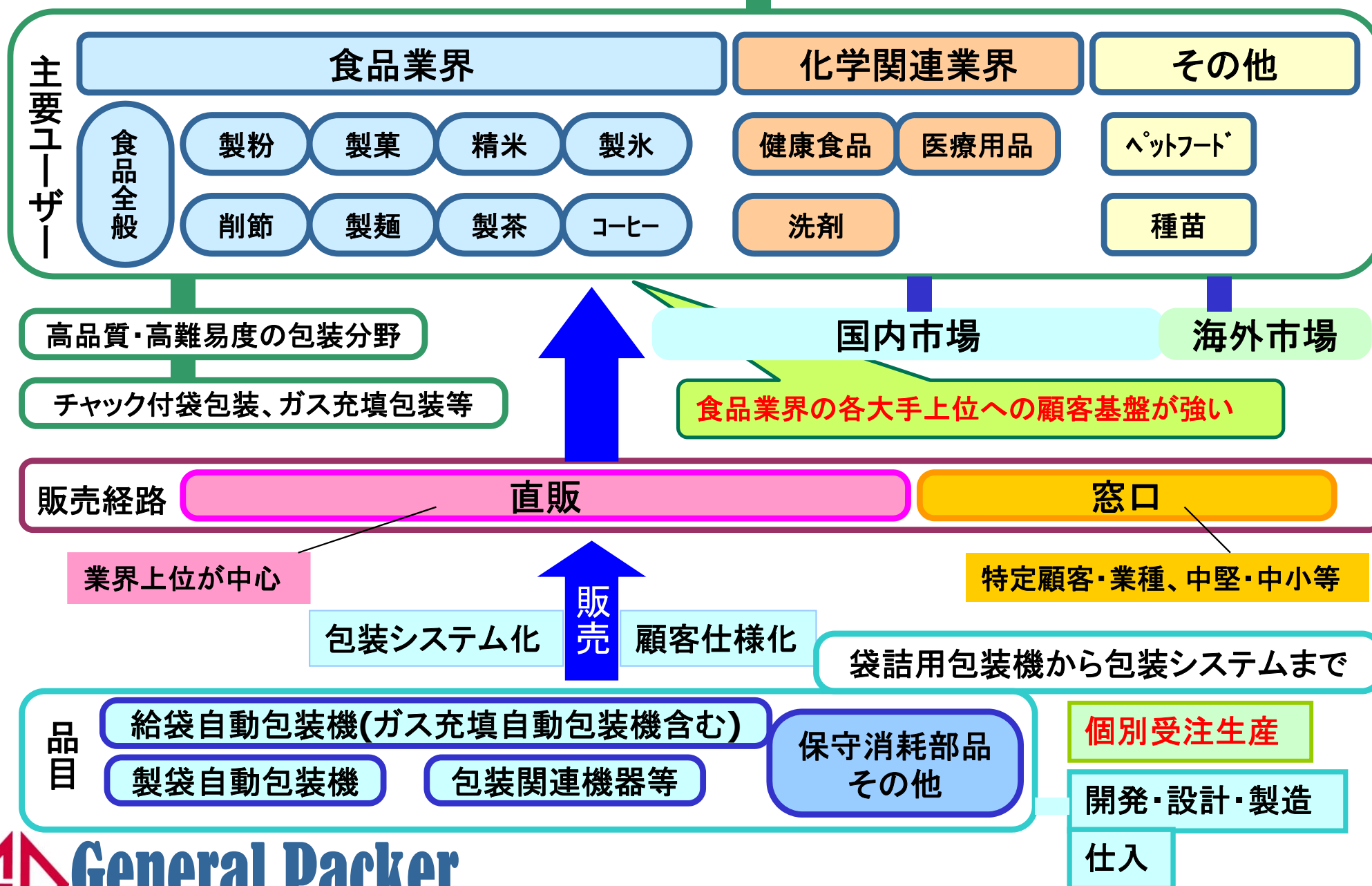
監査役 3名(内 社外3名)

■企業ビジョン

「社会・株主・顧客・取引先・従業員の全てに対し、誠実で透明性の高い経営を実践し、信頼され、支援される企業」の実現

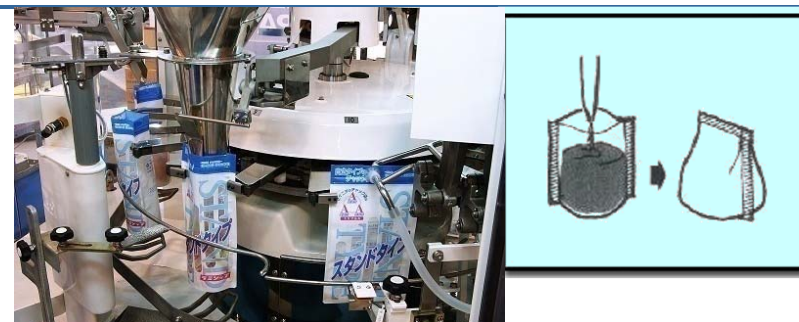
事業内容

主要市場:ドライ物(粉末・顆粒・固形物等)の包装用機械・システム



品目内容

対象物(粉末・顆粒・固形物等)
を袋に充填して包装する機械



袋詰用包装機

給袋自動包装機

袋 → 給袋装置 充填・包装装置

菓子類、小麦粉、食品類、調味料、ペットフード、健康食品、医療用品、肥料、粉末薬品、電子部品等の袋詰用包装機。多品種少量生産向け。

ガス充填自動包装機

袋 → 給袋装置 充填・包装・ガス充填装置

花かつお、ナッツ類等の袋詰用包装機。

製袋自動包装機

フィルム → 製袋装置 充填・包装装置

充填物は給袋自動包装機と同様。小袋の高速包装から大袋包装まで。フィルムから袋を作りながら包装する機械。

包装関連機器等

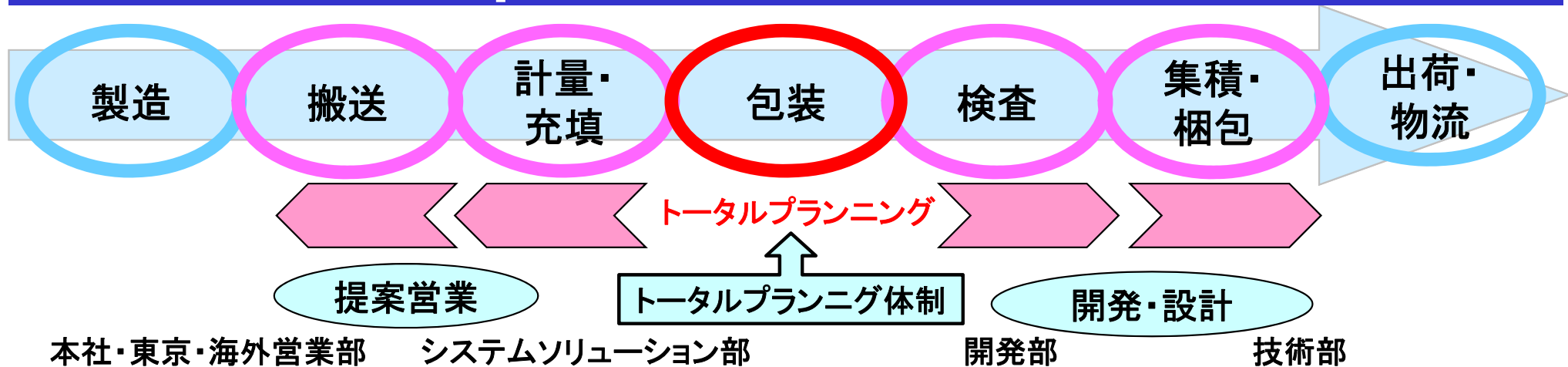
付帯機器(充填機、計量機、計数機、印字機等)、段ボールケーサー、各種包装システム等

保守消耗部品その他

当社販売機械の保守、修理・交換用部品、印字機、検査装置等の取付・改造等

(経営ビジョン)

One stopで応えるソリューションカンパニー



挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』

人員推移

	11/7期末	12/7期末	13/7期末	14/7期末	15/7期末	16/1期末
従業員	119	123	124	127	131	130
(内 開発・技術部人員)	(32)	(34)	(38)	(40)	(42)	(41)
臨時雇用者※	21	18	19	16	19	19
合計	140	141	143	143	150	149

※パート、嘱託、派遣

従業員平均年齢	37.4歳	37.5歳
---------	-------	-------

包装システムの市場創造型トータルプランナー ゼネラルパッカー株式会社

当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。

【IR窓口】 経営企画室 長谷川
〒481-8601
愛知県北名古屋市宇福寺神明65
電話: 0568-23-3111
FAX: 0568-22-3222
E-mail: info@general-packer.co.jp

